

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年4月19日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 4091600033 |
| 法人名 | 医療法人 布仁会 |
| 事業所名 | グループホーム シオンくしはら |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県久留米市東櫛原町61-1 (電話) 0942-30-7750 |
| 評価機関名 | 社団法人 福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成22年3月4日 |

【情報提供票より】(平成22年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|--------------------------------|
| 開設年月日 | 平成 18年 4月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 14 人 常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.7人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------|-------------|
| 建物形態 | (併設) 単独 | (新築) 改築 |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | |
| | 4 階建ての | 3 階 ~ 4 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 46,440円・51,450円 | その他の経費(月額) | 15,600 円 | |
| 敷 金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,380 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成22年2月3日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 |
| 要介護1 | 7 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 1 名 | | |
| 年齢 | 平均 88.7 歳 | 最低 | 77 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------|
| 協力医療機関名 | 新古賀病院、樺島歯科医院、村岡外科医院 |
|---------|---------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は医療法人を母体とし、クリニック、介護老人保健施設、デイケアやデイサービスを併せ持ち、市中心の商業地域の直ぐ近くに位置している。デイサービスやリハビリ施設が入居する建物の3階と4階にあるホームは、建物がきれいでリビングや食堂は天井が高く、大きな絵画を配置しホテルのような雰囲気がある。併設クリニックの迅速な医療対応、音楽、俳句、絵手紙などの趣味活動、リハビリを通じたデイ利用者との日常的な交流など、運営者の「老後はこうありたい、医療、介護、リハビリで地域の人々の健康と福祉の向上に貢献したい」との思いが建物やケアの方針に活かされ、職員は「笑顔とまごころ」のワッペンを胸に利用者の暮らしを支援している。認知症高齢者、その家族が安心して利用できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|-------|--|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) | 平成19年の外部評価では改善課題はなかった。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) | 管理者は職員に評価についての説明を行い、自己評価は職員全員で一つひとつの項目について検討し、管理者が意見のまとめを行った。自己評価に取り組む中で、新たな気づきや改善課題が明らかになっている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) | 地域の自治会長や民生委員、町づくりや社会福祉協議会の役職員、市や包括支援センター職員、施設理事長や代表、職員の参加のもとに2ヶ月に1度開催されている。利用者の状況、ホームの行事案内や運営報告等を行い、地域の方からの情報や意見、提案などをサービスの向上に活かしている。しかし、利用者や家族代表は参加していない。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) | グループホーム代表のマネージャーが窓口となり、一体的に家族の意見を聞くしくみがある。職員は家族の訪問時や電話の際に日常的な細かい意見や要望を聞いている。もらった意見や要望は職員会議で話し合い、日常のケアに活かされている。玄関に意見箱を設置しているがあまり活用がなく、家族会は設立されていない。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) | 運営推進会議での情報などを通じて地域のお祭りや子供会行事に参加し、法人で行う音楽会には近隣の子供さんを招待している。近所のバラ園見物に誘われたり、夏は近隣の方々と広場で花火大会を楽しんでいる。自治会には加入していないが、同じ施設のデイサービスやデイケアの利用者とは、リハビリやレクリエーションなどで日常的に交流している。市の中心に近い街中のホームとして地域の人々との交流に努めている。 |

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「医療、介護、リハビリテーションを通じて地域の人々の健康増進と福祉の向上に貢献する」という法人共通の理念の下に、6か条の運用指針を掲げ「笑顔と真心で接し、その人らしい生活を支援する」を目標にしているが、グループホーム独自の理念はない。 | ○ | ホームは開設から4年ほど経過しており、法人共通の理念ではなく、地域に密着しその人らしい生活を支援するグループホームとしての独自の理念を、全職員で話し合い作り上げることが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 玄関に法人の理念と運用指針を掲げ、職員全員で話合って年間目標を立てている。朝の申し送りや職員会議で意識づけを行い、「笑顔とまごころ」のワッペンを胸につけて目標の実現に日々取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域のお祭りや子供会行事に利用者も参加し、法人で行う音楽会には近隣の子供さんを招待している。近所のバラ園見物に誘ってもらったり、夏は近隣の方々と広場で花火を見たりしている。自治会には加入していないが、同じ建物内にあるデイサービスや隣接のデイケア利用者とは、リハビリやレクリエーションを通じて日常的に交流している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者が評価についての説明を行い、自己評価は全員で各項目について検討し管理者が意見のまとめを行った。自己評価に取り組む中で、新たな気づきや改善課題が見えてきている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の自治会長や民生委員、町づくりや社会福祉協議会などの役職員、市や包括支援センター職員、運営者、法人代表、ホーム職員等の参加で2ヶ月に1回行われている。利用者の状況、ホームの行事案内や活動報告を行い、地域の方からの情報や意見、提案などをサービス向上に活かしている。利用者や利用者家族は参加していない。 | ○ | 運営推進会議に利用者や利用者家族の参加を図って、利用者本位の視点での意見や提案をサービス向上に活かされることが望まれる。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | グループホーム代表のマネージャーが窓口となり、直接市役所へ出向いたり電話をしたりして、市の担当者と密接に連携して、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|--|
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員は職員会議で制度について学習して、理解を深めている。利用者や家族には利用契約時に説明を行っており、現在1名の方が公証役場を通して任意後見制度を利用している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ユニットごとに毎月「シオンだより」を発行し、行事や日頃の様子を伝えている。一部の利用者は家族が洗濯物交換や利用料支払い等での訪問の機会が多く、その際利用者の近況・健康状態等を報告している。職員の異動は「たより」で知らせたり、家族訪問時に紹介や挨拶を行っている。 | | |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 法人代表のマネージャーが窓口となり一体的に家族の意見を聞くしくみがある。職員は家族の訪問時や電話の際に日常的な細かい意見や要望を聞いている。もった意見は職員会議で話し合い、日常のケアに活かしている。玄関に意見箱を設置しているがあまり活用がなく、家族会は設立されていない。 | ○ | 直接意見を言いにくい家族の立場に配慮し、家族が集まる夏祭り・敬老会・運動会・クリスマス等の機会に家族だけの懇談会等の機会を作って、話し合いの中で家族同士が思いを共有し、その意見や要望を運営に活せる取り組みが望まれる。 |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動や離職の際は、利用者と一緒に別れの会を開き、引継ぎのために1週間から10日程度の猶予期間を設けている。また、新任の職員は慣れるまで先輩スタッフと一緒にケアを行い、利用者と同様になるよう配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢による排除はなく、職場に適した人柄かどうかを見て採用している。職員の希望する休日を入れて勤務調整を行い、働きやすい職場環境作りに配慮している。職員はアイデアを活かして音楽療法や体操などに取り組み、利用者とはふれあい、楽しみながら勤務している。 | | |
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 運用方針に「利用者的人格、人権を最優先する」と掲げ、人生の先輩として敬う心、言葉づかいなど接遇についてミーティングの中で振り返り、日々確認しながら取り組んでいる。利用者の心に沿うよう、入浴やトイレ介助、失禁時の対応などには特に配慮している。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は法人全体で行われる研修会や勉強会に参加し、段階に応じて外部の研修を受講している。毎月の職員会議や朝礼などで研修報告を行い、皆で情報を共有している。また、資格取得などの研修参加には、勤務を調整して支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市のグループホーム部会に加入し、管理者だけでなく職員が交替で研修会や勉強会に参加している。部会での交流や情報交換をサービス向上に活かしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族が数回ホームを見学に来て入居される利用者が多い。入居後は利用者の食事や転倒に気を配り、声かけを多くして早く馴染まれるようにしている。慣れるまでは家族にも頻回な訪問をお願いしており、馴染みの物や食器などを持ち込んでもらうなどの工夫をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、人生の先輩としての利用者から礼儀や作法などを教えられることが多い。また、体調不良になっても頑張る利用者の姿に、職員は元気づけられることもある。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人及び家族からホームでの暮らし方の希望や思いを聞いている。意思疎通が上手にできない方に対しては、表情やしぐさから読み取ったり、家族にアドバイスをもらったりしている。状況に応じて、筆談でコミュニケーションすることもある。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | より良い馴染みの関係を築くために、職員は2名で数名の利用者を担当している。本人、家族、担当職員と話し合い、医師や理学療法士、作業療法士の意見も聞いて、本人がより良く過せるように介護計画を作成している。 | | |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 職員会議の中で毎月モニタリングを行い、長期目標を6ヶ月、短期目標を3ヶ月と定め評価している。介護認定期間終了前には、それまでのモニタリングや評価を踏まえ本人、家族、担当職員と話し合い、医師や理学療法士、作業療法士の意見を聞いている。また、急激な変化が生じた時は必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 法人が併設しているデイサービスセンター、デイケアセンターの利用者とりハビリやレクリエーションなどで交流を行っている。体調に変化や異常がある場合は、時間をおかず併設の病院を受診している。また、法人の建物内にゲストハウスがあり、希望により家族の宿泊も可能である。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に本人及び家族と話し合い、本人や家族の希望により、かかりつけ医は併設の医院に変更している。家族は「医院が併設されているので安心」と喜んでいる。健康管理のため週に1回、医師である法人理事長の往診を受けている。眼科、歯科の受診支援は家族が行っているが、急な場合はホームで受診を支援している。 | | |
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りを行ったことはないが、医院が併設されているので、看護師や医師との連携や協力体制が取りやすく、希望があれば柔軟に対応する準備は整っている。契約時に重度化した場合や終末期について説明し、話し合いを行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| 整っている。 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、傷つけるような言葉かけや対応はしないように職員同士で気をつけている。記録等の個人情報は事務室のカウンターの下に保管し、人の目に触れないようにしている。 | | |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 音楽やレクリエーション参加は利用者のペースを大切にし、その日の体調や気分にあわせ、参加されない方は職員と話をしたり自室で寛いだりしている。職員は起床や就寝の声掛けは行なうが、時間は利用者一人ひとりの生活習慣に合わせている。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご飯と汁物はホームのキッチンで作るが、他は併設施設の厨房で作られている。利用者は毎食の品書きやメニューの紹介、後片付け、テーブル拭きや食器拭きなど一人ひとりの出来ることを手伝い、検食の職員と共に食事を楽しんでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日入浴の準備をして、利用者は週3回入浴している。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、他の職員が声掛けしたりして工夫しているが、無理強いしていない。また、体調に合わせて清拭や着替えなどの支援を行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎日のレクリエーションの他に、音楽や俳句、塗り絵、絵手紙、居室掃除、洗濯物干しやたたみ物、食事のお品書き、メニュー紹介など趣味やできることを活かした役割で、張り合いのある日々を支援している。ホームに入居してから始めたキーボードは、練習の甲斐あり演奏曲目も増えている。 | | |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買物、散歩、近くにある神社へのお参り、季節のお花見など利用者の希望や天候に合わせて出かけている。今年は家族も一緒に日帰り旅行を計画している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室や玄関には鍵はかけていない。利用者が一人で外に出ようとする時は、職員がさりげなく後からついていく。夜間は2ユニットに夜勤者が一人のため、巡回の時は簡単な鍵をかけ、出入りができるようにしながらも安全に配慮している。 | | |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 法人全体で消防署の指導のもとで年2回、2日間に分けて避難誘導訓練を行っている。職員は必ずどちらかの日に参加するようになっている。調査訪問時は、スプリンクラーの設置工事が行われていた。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご飯と汁物はホームで、他は併設施設の厨房で栄養バランスの良い食事を作っている。利用者一人ひとりの状態に応じてお粥にしたり、おかずを細かく刻んだりミキサーにかけたりして提供している。食事や水分の摂取量はチェック表に記録し、毎月体重測定を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングや食堂は天井が高く、壁には特大の絵を配置しホテルのロビーを感じさせる重厚なつくりになっている。食堂に続くベランダではプランターに季節の花を育て、夏はお茶を飲んだり花火大会を觀賞したり、四季を通じてゆったり過せるようになっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|---|--|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室の入り口には落ち着いた絵画が飾られ、洗面所とトイレが各室に設置されている。また、収納場所の多い家具が備え付けられ、利用者は衣類、食器類、書籍、テレビや冷蔵庫等それぞれ好みの物を持ち込み、自宅にいるような生活感が溢れている。 | | |